

1974 (昭和49年)

会員数63名



23代理事長  
鈴木欽次郎

八幡浜JC始まって以来最年長の理事長として活躍された鈴木欽次郎氏は、重要事業として二つの事業を掲げた。

一つに「歌声の聞こえる心豊かな街づくり活動」として八幡浜児童合唱団の設立である。当時、本市において文化的行事が少なく、「文化」の二文字には程遠い感がしていた。ここに文化を芽ばえさせ、歌声を通して心豊かな街づくりを目指した。

小学生児童を対象とした此の事業は鈴木理事長の人間性にもマッチした内容で、合唱団担当を青少年開発委員会に置いての出発だった。副理事長の松本高房氏・伊藤礼司氏・担当委員長の高橋兼造氏その他全メンバーの協力の元で設立の為の資料集めに躍り廻った。

2月8日の市内小・中学校校長会に八幡浜児童合唱団設立趣意書を持参し説明する等設立の第一歩となる。

4月28日松蔭小学校にて団員選考会が行なわれ、5月25日には90名の団員による入団式と育成会の発会式が行われた。

メンバー、その他関係者の努力の結果、「秋には第1回の発表会を開く」という理事長の方針通り夏の合宿や日々の練習を重ね6ヶ月後の11月4日には、八幡浜児童合唱団結成記念行事として、愛媛ボーカルグループによる歌劇「赤い陣羽織」の公演と共に、第1回の発表会を市民会館大ホールにて開演する事が出来た。

その時の感想を鈴木理事長はつぎの様に語っている。「あの時の感激は一生忘れる事はないでしょう。まさに天使の歌声だと確信致しました。この殺伐とした世の中で一点の明りを見いだした様に、一瞬心豊かな思いにひたつたものでした。」

この事業は全市民をも巻き込み、各地区には、ママさんコーラスが結成され、当初の目的である「歌声の聞こえる心豊かな街づくり」へと大きく踏み出したのである。又、昭和54年には日本JC褒賞において、栄えある自由テーマ賞に輝いた。

二つ目には、交通公園の建設運動である。狭い道路、そこを無差別に多くの車・自転車・人が使用している。子供の急な飛び出し、子供と老人の自転車事故。この人達を輪禍の中から守る為と、市民の憩いの場として公園建設を望み市に働きかけた。

その第一歩として9月21日に、「JC掘出し市」を開催した。メンバー全員に最低5点以下の商品提出を呼びかけ、市民へのPRは新聞折り込みによって行なわれた。家具・食料品・新品衣料・中古衣料・タオルコーナーそれに百円、二~三百円、四~五百円、六百円以下とに分けられ市民会館前広場をにぎわしたが、短時間で全商品売り切れになり楽しみにやって来た市民を残念がらせた。

その時の収益金は全て公園建設の為の資金として市に寄付された。

その他の事業として3月21日には勤労青少年とのソフトボール大会、翌22日には坂本武氏を講師に招いての経営セミナーを商工会議所中ホールにて実施。

4月7日には、JC会員運転再チェック大会を八幡浜自動車教習所で行なわれた。いつも腕自慢のメンバーも、終って見るとションボリ。というも、合格点(70点以上)を取得出来たのは、33名中4名でメンバーの平均得点は49点だった。「運転は初心に戻って!」と改めて思ったのもこの時だった。

7月28日には長浜海水浴場へ「JC」家族会。翌29日、親睦ソフトボール大会。

8月30日、岩切嘉市氏を招き商工会議所にて八商青連との交流会。

9月8日、ニューいづみ前にて「花いっぱい運動」として花の種無料配布。翌日9日、商工会館大ホールにて「八幡浜ヤングフェスティバル(ダンスパーティ)」。

10月7日、「奥様例会」を12時~13時30分迄行いその後四国ソーイング超特価の買物へ。安い買い物で大変喜ばれる。

10月18日テヤテヤ踊り競演大会。10月20日、八幡浜みなど祭恒例仮装行列参加は「JCの天子言」。

12月14日、定時総会。この一年間は合唱団で始まり合唱団で終わったと言っても過言ではないだろう。



八幡浜児童合唱団入団式風景



合唱団入団審査風景



市民会館前でのJC掘出し市

1975 (昭和50年)

会員数67名



24代理事長  
松本高房

昭和50年は、八幡浜青年協議会設立と2年目を迎えた八幡浜児童合唱団の基礎作りという二つの柱にささえられ、統一事業の「王子の森ヤング・ヤング・ヤング」が開催された年である。

2月には、合唱団事業と共に今年の大きな事業の一つに、各青年団体との交流を深め、手を取り合って地域発展に努力して行こうと言う目的での八幡浜市青年協議会へと進行したが、他団体から市長選目的の団体作りとの誤解をうけキャンセル。その後、継続的に各団との接触をはかり、5月30日には、やっと理事長方針通り八幡浜青年協議会の結成が実現した。



市民会館に舞台を移して行なった「仲間をつくらう王子の森ヤング・ヤング・ヤング」でスクールメイツ出演

この協議会の協力を得て、取り組んだJCデー統一行事「仲間をつくらう王子の森ヤング・ヤング・ヤング」では、長時間に渡る汗と努力によって企画された。

9月6日午前中王子の森グラウンドにおいて設営したが完成と同時に皮肉なもので天候が急変し、スコールがやって来た。ドラムもセットしていた舞台上は、雨と同様メンバーの後かたづけで道をふさがれたアリの様であった。メンバーは、うらめしそうに空を見上げながら場所を急遽市民会館大ホールに変更した。

「教育」を働く青少年の健全なサークル活動の育成に置き新しく出来た王子の森グラウンドに若者を集めすれゆく地方の御神楽や唐獅子、盆踊りを見せて、先祖が守り続けて来た郷土の芸術や文化をもう一度見直そうと言う意味も込めて企画されたものだっただけに場所が王子の森グラウンドにくらべて狭い市民会館に変更しなければならなかったのは残念でならなかった。しかしながら若者達の演ずる地元バンドや新しく出来た太鼓、新町太鼓、市民合唱団、八幡浜高校ブラスバンド部、それにスクールメイツのハツラツとした歌や踊り等の競演で新旧とりまぜてのアトラクションは会場狭しとびびきわたった。

二つ目には2年目を迎えた合唱団の基礎づくりの年であった。

前年結成された八幡浜児童合唱団の充実をはかる為、夏期合宿が大洲青年の家で初めて実施され、団員達の協同意識・団体生活・技術の向上がはかられた。合宿中は、常にメ

ンバーが付添い、JCメンバーと合唱団団員との親密感が高まった。又、夜のキャンドルサービス等は初めて経験した者が多くレッスンのつらさを忘れ、無心にキャンドルを眺めている姿は大変美しいものである。今では、夏期合宿の辛さはあるものの団員の一つの楽しみにもなっている。

秋の定期演奏会の他に愛唱連合同発表会に参加し吉田町の合唱団発表会に友情出演している。



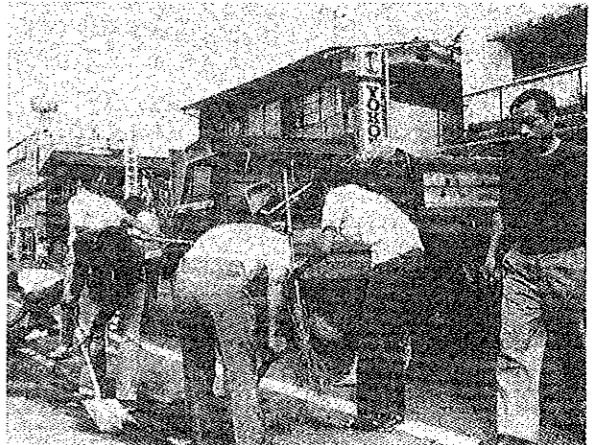
大洲青年の家での合唱団合宿風景



大洲青年の家での合唱団合宿のひとつ

愛媛ブロック会員大会が3月23日に八幡浜で行なわれたのもこの年である。中川元国連大使も出席し海外状勢の講話があった。又15年ぶりに四国の地で行われた第24回全国会員大会に於て主管の松山JCを助け、副主管としての物心両面の協力を行った等、内外に対し変化のある忙しい年であった。

この年は平田久市OBが市長選に、メンバーの浅岡清文・宮本利之両氏が市議選に当選した。



昭和通りを清掃するJCメンバー